

かぶつて居るが南京米の四分六なのである、副食物に至つては毎日ワカメの四年も五年も経た奴を喰せるものであるから俺達は種々副物を用意して乗船しなければならぬのだ。

見よ！只さい安い賃銀から左様した事は俺達積取労働者に取つて経済的的一大苦痛なのだ、其の上布團賃、下宿屋の口錢を差引くならば一生懸命に働いて秋の積取末期に下宿屋にサガリ金を附ける様な事に至るのだ、だから俺達は炭山募集の前金をして其の方の片を附けなければならぬと云ふ様な仕末に至るのだ。

見よ！石炭の上に寝起し中甲板の鐵板の上へ薄べり藁一枚で寝て働いて報酬がそうした結果に終るのだ。

だから俺達積取労働者はそうした親方の酷使に抗争するには一人二人の抗争では何等の意義がないのである、こうした不平を統一するため積取労働者大會を最近に開催するによつて積取労働者諸君は奮つて参加されんことを望む。

昭和貳年六月貳拾五日

㊦ 下宿人有志 加 下宿人有志

㊧ 同 萬 同

㊨ 山 同 同

㊩ 金 同 中 同

㊪ 中 同 一 同

㊫ 金 同 中 同